

[D. 林業労働に関する研究]2. 都市近郊における林業労働力の存在形態について

吉良, 今朝芳
九州大学農学部附属演習林 : 助手

塩谷, 進
九州大学農学部附属演習林 : 教授

<https://doi.org/10.15017/1456343>

出版情報 : 演習林研究経過報告. 昭和44年度, pp.28-28, 1970. 九州大学農学部附属演習林
バージョン :
権利関係 :

D 林業労働に関する研究

1 山村における林業労働力の存在形態について——宮崎県椎葉村 大河内地区の実態を中心として——

吉良今朝芳・有馬進

調査地区の林業労働力の存在形態は地元の零細な農家で、農家経済の家計補充的に出役する兼業労働者とプロ化した専業林業労働者とに大別される。

兼業労働者は「班」組織による団体出来高個人平等分割賃金制と直接雇用による日給制とが存在し、一般に育林労働を主体としている。また一方、専業林業労働者は林業作業請負会社に定着している場合と、素材生産部門に常用的に組織化されている場合とが基本的形態であつて、伐出労働を主体とする。

こうして兼業労働者は、雇用の継続性、狭隘性のもとにあつて、賃金水準は依然として低位におかれている。一方専業林業労働者は就労機会において、比較的安定しているとはいえ、その雇用形態において賃金の中間搾取の可能性をもち、雇用関係の近代化が要望されている。

演習林研究経過報告第8号別冊

2 都市近郊における林業労働力の存在形態について

吉良今朝芳・塩谷勉

林業労働は「半農半労型」の労働力として存在しているが、その存在形態は大きく変化してきている。つまり①林業労働の担い手の量的・質的な変化、②賃金形態、賃金水準などの雇用条件は他産業と対比してみても、劣悪であり、その格差は年毎に拡大しつつある。③労働組織および労働調達構造は、いまだ非近代的関係におかされている。④林業労働者の雇用条件は、私的林野所有構造と林業がもつ特殊性から、全体的に悪い状況にある。

研究発表誌名：福岡県林業構造改善事業効果調査報告書 昭和45年3月

福岡県林業経営協議会